

■第 2 回審議会の主な委員意見

[凡例]

○数字：審議会での主な意見

●数字：欠席委員ならびに審議会後の追加意見

1. アトリアと美術館の位置づけ

- ① 美術館を川口のアートの中核とし、アトリアは美術館の分館と位置づける。
- ② 美術館を中核としながらアトリアやリリアと一体となり、川口の美術館を形作る。
- ③ 役割分担を行い、幅広いアート体験を提供する。
- ④ ランニングの効率性も踏まえた機能分担を検討する。

2. 「川口之美」の定義づけ（見せることと、表現すること）

- ① 美術館で扱う美術分野の定義をはっきりさせる。
- ② アトリアでは現代アートを扱い、美術館ではそれ以外を扱う。
- ③ 美術の範囲を限定するよりも、多くの市民が感心を寄せるような作品から、優れた作品まで幅広く扱い、アトリアと美術館とで役割分担する。
- ④ 川口でできることを突きつめていけば自ずと独自性が発揮され、地域の活性化につながる。
- ⑤ 「川口の匠」展を紹介し、川口らしさについて議論すべき。
- ⑥ 川口や埼玉に限定せず、対象を広げてはどうか。
- ⑦ グローバルと変革、伝統文化といった視点から美術館を捉えてはどうか。

3. 事業活動方針

- ① 事業活動の基本的な考え方に、文化芸術を通して多くの人が交流し、市民がいきいきと活動するとともに、市全体の経済の活性化につながる方針を加える。
- ② アートを通じた交流が市民等の創造性を高め、地域活性の活性化につながる。
- ③ 人と人や、人と作品のコミュニケーション（を通して理解を得ること）が重要。

4. 現在のアトリアに求められる要素

- ① 情報発信の強化。
- ② 学校教育との連携強化。

5. その他

- ① 美術館活動を安定的、継続的に推進するための職員体制が必要。
- ② 設計段階から学芸員の参加が必要。
- ③ 館長の要件を審議会としてとりまとめてはどうか。
- ④ 憩いの空間が必要。